

変わりゆく時代のケアマネジャー応援誌

2015年7月30日発行(毎月30日発行) 第26巻第8号 通巻288号
1995年3月14日第三種郵便物認可

月刊ケアマネジメント

8月号

特集

新総合事業がスタート

始めよう 地域づくり

特別企画

かくれ脱水に
ご用心



連載

新・事例検討道場

新連載

医師との
上手なつき合い方



「お父ちゃんの介護、 メッチャ楽しいねん！」

兵庫県尼崎市。JR尼崎駅から車で数分の距離に杉原家はある。父娘二人暮らし。父である進さん82歳は、脳梗塞から始まって、脳血管性認知症がある。娘の智子さんは49歳。進さんが倒れてからの約10年間、一人で進さんを在宅介護してきた。ショートステイは一切利用しない。というのも、進さんをショートに託そうとしても、大声をあげる等々で受け入れられないのだ。

さらに、手も出る足も出る。

さて、このように記すと閉塞感とか悲壮感などの文字が脳裏をよぎる。しかし、杉原家に悲壮感は存在しない。進さんは言語障害があるものの、その言葉は聞き取れる。そしてこんなあんばいだ。

「おい智子、トイレ行くで」「ちょっと待ってよ!」「智子、もうおまえはいらん。葉子を呼べ」「お父ちゃん、さっきは花

子さんやったやない。オンナがぎょうさんおってええねえ? もう私なんかいらんでしょ?」「あかん、智子はいてくれ」

智子さん大笑い。二人の漫才は一日中だ。「智子、おまえアホやなあ!」「えっ! アホですか? ほんならお父ちゃんは?」「おまえの次や」

智子さんが在宅にこだわり徹底していることの一つに、マイケアプラン作成もある。もっとも、給付管理など細かい

部分は市の担当が対応してくれているそうだ。

そして、主治医の長尾和宏先生。毎週水曜、先生の往診日は爆笑爆笑で終始する。杉原父娘の長尾先生への信頼は熱く、厚い。

智子さんが優しい目をして一言。
「私、お父ちゃんと一日中一緒に
歩く、メッチャ楽しいですよ。この子(愛
犬ポン)もいてくれるしね」

